

2040年の舞鶴をみんなで考える

「#みんなでつくる舞鶴2040」

プロジェクトがスタート!!

プロジェクトについて舞鶴市の次期総合計画策定
庁内ワーキングチームのみなさんにお話をお聞きました♪



—まず、この『#みんなでつくる舞鶴2040』
を立ち上げた背景から教えていただけますか？

舞鶴市では、現行の第7次舞鶴市総合計画が2027年に終わりを迎えることから、次期総合計画を作っていくため、市役所内で庁内ワーキングチームを立ち上げました。

チームで話し合う中で、団塊ジュニア世代が65歳以上となり、高齢化がピークを迎えることで、社会保障費の増大や労働力不足、インフラの老朽化など様々な課題が深刻化するとされている「2040年問題」を念頭に、今後は、これまで以上に多くの市民のみなさんと力をあわせてまちづくりを進めていくことが大事だと考えました。

そこで、市民一人ひとりが、自分事として、2040年の舞鶴の姿に向き合う機会にできるように、「#(ハッシュタグ)みんなでつくる舞鶴2040(にーまるよんまる)」プロジェクトを始動しました。

このプロジェクトを通して、多くの市民のみなさんが自分事としてまちづくりに関わっていただけたらと思っています。

—今の舞鶴をどう捉えておられますか？
そして2040年の舞鶴は、どんな姿を目指しているのでしょうか？

舞鶴市は、毎年1000人以上の人口減少が続いており、今後も少子高齢化により生産年齢人口の減少が進む中で、「2040年問題」は大きな課題です。

しかし、私たちは、このような未来予測をマイナスと捉えるのではなく、2040年の未来の舞鶴市を前向きに考えたいと思っています。

現在、様々な形でいただいた市民のみなさんの意見を参考に、検討をしているところですが、舞鶴に住む全ての人が自分らしく輝き、暮らしやすいまちをみんなで目指していきたいですね。

—このプロジェクトは、市民参加が大きな柱になっていますよね。なぜこの形を選ばれたのでしょうか？

未来の舞鶴をつくり、そこで生活するのは、市民のみなさん一人ひとりだからです。だからこそ、次期総合計画には、市民のみなさんの声を反映させたものでなければなりません。

そこで、総合計画策定に誰でも参加しやすくするため、市民一人ひとりの思いを手軽に発信できる環境を整えました。

「自分が市長なら、2040年こんなまちを目指したい」「自分が市長ならこんな課題に取り組む」といったことをテーマにした意見投稿や「2040年に残したい風景」や「食」、「みんなに伝えたい人」の写真投稿、ワークショップ、アンケートなど様々な形で行っています。

このプロジェクトを機に、市民一人ひとりがまちづくりに関心を持つきっかけになってほしいですね。

—ワークショップ、フォト投稿、アンケートと、いろいろな参加方法がありますが、それぞれどんな役割があるのでしょうか？

参加方法を多様化することで、市民一人ひとりに合う形で参加していただけたらと考えています。

ワークショップでは、参加者が会場に足を運び、設定したテーマごとに具体的なアイデアを話し合うことで、熟度の高い意見を交わしつつ、参加者同士の交流を促す役割があります。これまで「女性や外国人が働き・暮らしやすいまち」「どうすればまちづくりにワクワクできる人が増えるのか」「観光まちづくり」をテーマに開催してきました。

意見投稿では、市民のみなさんが心のなかで思っている舞鶴への思いを気軽に投稿フォームやSNSで投稿いただけます。

写真投稿では、日常の中にある「舞鶴の魅力」や「気づいていない課題」を投稿フォームやSNSで投稿いただけます。文字情報だけでは伝わらない、市民のみなさんの「愛着」や「想い」を集めることができると考えています。それに、言葉にするのが難しい方でも、写真という形では参加しやすいと考えています。

他にも、アンケートでは、幅広い世代から定量的な意見や網羅的なニーズを把握しています。

—市民から集まった声や写真は、どのように分析して、実際の計画に反映されるのでしょうか？

投稿いただいた意見は、AIを用いた分析ツール「広聴AI」を活用し、客観的に素早く分析し、次期総合計画に必要な要素を抽出し反映していきます。写真については、市民一人ひとりの「愛着」や「想い」を形にしたアート作成を検討しています。

意見投稿や写真投稿については、舞鶴高専のプログラマーズコミュニティクラブの学生に製作を依頼した「#みんなでつくる舞鶴2040」の特設サイトで随時公表していますので、ぜひご覧ください。

ワークショップなどでは、個別具体の意見をいただく中で、それぞれの分野で今後推進する方向性のヒントとなり、本市がどのような取組を進めていくのかの参考とさせていただきます。

アンケートにおいては、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感」について、定量的なデータを収集することができたので、市は何に取り組むべきかの参考にしたいと思っています。

—特に、どんな人に参加してほしいと考えていますか？若者、子育て世代、高齢者など、それぞれへの期待があれば教えてください。

どんな形でもいいので、できるだけ多くの市民のみなさんのリアルな思いを届けたいと思っています。

そのうえで、例えば、若者のみなさんには、住みたい・働きたいと思えるまちがどんなまちかお聞きしたいと思いますし、子育て世代のみなさんには、日々の暮らしで感じるリアルな課題感やニーズをお聞きしたいと思います。高齢者のみなさんからは、これまで舞鶴を築いてきた知恵と経験をもとに、継承したい地域の魅力などお聞きできればと思っています。

—最後に、このプロジェクトに向けて、市民の皆さんへ伝えたいことはありますか？

「#みんなでつくる舞鶴2040」は、市民のみなさん一人ひとりの夢と希望を形にするプロジェクトです。

市民一人ひとりの「今の舞鶴」に対する想い、そして「2040年の舞鶴はこうあってほしい」という小さなアイデアや気づきが、未来の舞鶴をつくる原動力になります。みなさんの積極的なご参加を心よりお待ちしております。



意見や写真の投稿についての
詳細は特設サイトをご覧ください。
投稿お願いします。

#みんなでつくる舞鶴2040の
特設サイト

